

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 18 日現在

機関番号：34526

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2012～2016

課題番号：24730496

研究課題名(和文)高齢者のメンタルヘルス改善に資する社会的活動の実証的分析

研究課題名(英文)An empirical study of social activities which contribute to improve mental health of older people

研究代表者

安部 幸志(Abe, Koji)

関西国際大学・人間科学部・教授

研究者番号：90416181

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は地域における様々な社会的活動への参加と高齢者のメンタルヘルスとの関連を検討することを目的として行った。研究期間内に、岐阜県内で行った調査データを解析するとともに、兵庫県加西市および丹波市で調査を実施し、それらのデータについても解析を行った。分析の結果、岐阜県内で行われていた頼母子講と呼ばれる社会的活動に参加しているグループのメンタルヘルスが、参加していないグループよりも有意に良好であることが明らかとなった。また、兵庫県内のデータを分析した結果、地域への信頼度や、まつりごとに参加しているかどうかが高齢者のメンタルヘルス改善に有意に寄与していることが確認された。

研究成果の概要(英文)：Depression and related health problems were major reasons for suicide among older adults. Some research evidence showed that characteristic social activities in the local area had important roles for maintaining the mental health among older residents. In this study, we aim to examine the relationships among social engagement (social activities) and mental health. Data were collected from Gifu prefecture and Hyogo prefecture. The participants were asked about demographic information, social engagement, and mental health (Geriatric depression scale.) Results indicated that a social activity in Gifu prefecture (Tanomoshi-ko) had a significant effect on mental health. In addition, we found significant effects of social trust and participating in local events on mental health of older adults in Hyogo prefecture.

研究分野：高齢者心理学

キーワード：高齢者 メンタルヘルス 社会的活動 抑うつ

1. 研究開始当初の背景

わが国は、2007年に高齢化率が21%を超え、すでに超高齢社会に突入している。人口の高齢化とともに、精神的な障害を有する高齢者の数も増加しつつあり、近年の60歳以上の高齢者におけるうつ病患者数は、1999年に比べると20万人以上増加している(厚生労働省、2009)。高齢期におけるメンタルヘルスの悪化は、結果として自殺などに結びつくこととなり、60歳以上の自殺者数は、2010年に1万2千人にまで達している(警察庁、2011)。最近では、高齢者のメンタルヘルス維持や、自殺予防を目的とした取り組みが自治体主体で行われているが(栗田ら、2008)、それらの根拠となる高齢者のメンタルヘルスとその関連要因についての基礎的データは未だ不足しているのが現状である。

高齢者の精神的・身体的健康に関わる要因として、近年着目されているのがソーシャル・エンゲージメントである(Glass et al., 2006)。ソーシャル・エンゲージメントとは余暇や生産的活動等において、「積極的に社会的な役割を果たすこと」と定義されており、老年学分野において様々な要因との関連が報告されている。例えば、Kruegerら(2009)は、838名の高齢者を対象とした調査を行い、社会的活動への参加、社会的ネットワークの広がり、社会的支援の3つから構成されるソーシャル・エンゲージメントが高齢者の認知機能の維持に影響を与えていることを明らかにした。また、Glassら(2006)は長期縦断的調査によって、ソーシャル・エンゲージメントが抑うつに影響を与えていることを明らかにしている。わが国においても、ソーシャル・エンゲージメントや地域の社会資本(ソーシャル・キャピタル)に着目した研究が散見されるようになり、高齢者のメンタルヘルスとの関連について報告がされつつある。

しかしながら、これまでに行われてきたソーシャル・エンゲージメントに関する研究では、概念を幅広く捉えることが多く、具体的な社会的活動との関連について、十分な知見が得られていない。また、地域に根付いた活動については、ほぼ検討がされておらず、わが国の特色豊かな地域活動に焦点を当てた研究の蓄積が強く求められていると言える。

2. 研究の目的

本研究では、高齢者が実際に参加している多種多様な地域活動を測定し、高齢者のメンタルヘルスとの関連を検討することを目的とした。具体的には、地域におけるインフォーマルな社会的活動に焦点を当て、「無尽」や「頼母子講」などを通じた社会的活動に参加することがどのような効果をもたらすのか、実証的な見地から分析を行う。研究当初の調査実施案としては岐阜県を中心とする地域を対象にすることを想定していたが、上

述したように多種多様な地域活動を測定するために、兵庫県においても調査を実施し検討を加える。

3. 研究の方法

本研究では、上記課題を達成するために、岐阜県内のデータと兵庫県内のデータを用いて検討を行った。

(1) 岐阜県内における調査データの解析

平成24年度に、岐阜県内で行われている頼母子講における経済的活動、つまり金銭のやり取りの有無に焦点を当てた解析を行った。具体的には、高齢者のメンタルヘルスを測定するためにGDS(Geriatric Depression Scale)を使用し、頼母子講への参加および参加内容との関連を検討した。

(2) 兵庫県内における調査データの解析

平成25年度に兵庫県加西市、平成27年度に兵庫県丹波市で質問紙調査を行い、そのデータの解析を実施した。また、加西市・丹波市においては、ソーシャル・エンゲージメントに関する基礎的資料を得るためのインタビュー調査も実施した。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

岐阜県内の調査データを解析したところ、もっともメンタルヘルスが良好であったのは、金銭のやり取りがない頼母子講に参加しているグループであった。一方、山梨県の無尽のように金銭のやり取りがあるグループは、頼母子講に参加していないグループよりはややメンタルヘルスが良好であったが、金銭のやり取りをしていない群に比べるとメンタルヘルスがやや低いことが明らかとなった。この結果は、地域での活動を継続する意欲となっていると思われた金銭のやり取りが、メンタルヘルスの維持という観点からは必ずしも重要ではないことを意味していると考えられる。地域の互助として始まった頼母子講であったが、互助という側面が薄れ、イベント会費の積み立てという形式になりつつあり、また、その形式の方が参加しやすい、コミュニケーションが取りやすいなどの利点があるため、高齢者の健康に寄与するのではないかと考えられた。

次に、兵庫県内の調査データを解析したところ、加西市および丹波市において共通する結果が得られた。具体的には、近所の人間を信頼できると回答した高齢者、そして近所づきあいやまつりごとへの参加をしている高齢者ほどメンタルヘルスが良好であることが明らかとなった。これは、兵庫県内のある程度距離が離れた地域かつ交流が少ない地域でほぼ同様の結果が得られたことから、頑健性を備えた結果であると思われる。つまり、わが国では、地域への信頼感を有していたり、社会的活動へ積極的に参加している高齢者

ほどメンタルヘルスが低下しにくいという知見がある程度共通して観察される可能性が高いことが示唆された。

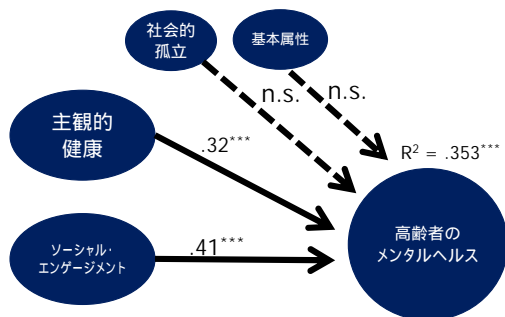


図1 高齢者のメンタルヘルスとソーシャル・エンゲージメントおよび関連要因の分析結果

最後に、丹波市で実施した調査データを用いて、高齢者のメンタルヘルスを従属変数、ソーシャル・エンゲージメントおよび関連変数を独立変数とした重回帰分析の結果を図1に示す。分析の結果、高齢者のメンタルヘルスにもっとも強い影響を与えていたのは、ソーシャル・エンゲージメントであった ($= .41, p < .001$)。2番目に強い影響を与えていたのは、主観的健康度評価であった ($= .32, p < .001$)。また、本研究では、もともと高齢者が社会的に孤立しているかどうかを測定するため、正月三が日に家族や友人と過ごすかどうかに回答を求めており、その変数を分析にも使用した。その結果、社会的孤立はソーシャル・エンゲージメントとの関連を統制した上で分析すると、高齢者のメンタルヘルスには有意な影響が認められないことが明らかとなった。これは、社会的孤立状態であったとしても、地域に対する信頼感やつながり意識を保持し続けることが出来れば、メンタルヘルスの維持に繋がることを示唆していると考えられる。

本研究は主に横断的な研究であったためソーシャル・エンゲージメントと高齢者のメンタルヘルスとの明確な因果関係を明らかにすることは困難である。そのため、今後は、独自の社会的活動を実施している地域を対象とした継続的な調査研究を実施することが必要であろう。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

複数の地域で高齢者のメンタルヘルスとソーシャル・エンゲージメントについて実証的な研究を行ったケースは少なく、国内における基礎的データの一つとなる研究であると思われる。また、地域の特色ある社会的活動については、海外においてもメンタルヘルスとの関連についてほとんど扱われておらず、高いインパクトを有する知見であると考えられる。

(3) 今後の展望

高齢者のメンタルヘルスの悪化は、自殺につながるかとされており、本研究で測定した抑うつはその大きな要因として考えられている。本研究では、現在社会的活動に参加しているかどうかを分析したが、自殺に至るまでメンタルヘルスが悪化している高齢者は、かなり以前から社会的活動に参加出来ていないことが予想される。よって、社会的活動への参加を長期に渡って観察し、参加出来なくなった原因や促進する要因についても調査を重ね、より明確な因果関係の特定につながる研究が必要であると思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

安部幸志・菅田瀬那・村上晋平・前田麻更・中島里菜 高齢者の暮らしとこころのケアのあり方について. 関西国際大学カウンセリング研究所紀要, 1, 12-22, 2013年3月, 査読無.

〔学会発表〕(計13件)

Abe K, Takagishi Y, Itayama A. Depression symptoms among senior survivors of flood-affected area in Japan. International Congress of Psychology 2016. 2016年7月27日、横浜市

Takagishi Y, Itayama A, Abe K. The influential factors on developing PTSD for senior survivors of post flood-disaster area Japan. International Congress of Psychology 2016. 2016年7月27日、横浜市

Itayama A, Abe K, Takagishi Y. Reliability and validity of short-form Post Traumatic Growth Inventory Japanese version (PTGI-J-SF). International Congress of Psychology 2016. 2016年7月27日、横浜市

Abe K, Ohashi A, Ohi C. Subjective cognitive status, social capital and depression among senior citizens in Japan. IAGG Asia/Oceania 2015 Congress. 2015年10月21日、Chang Mai, Thailand.

安部幸志 高齢者の抑うつに対する地域における社会的資本の効果. 日本心理学会第78回大会. 2014年9月12日、京都市

安部幸志 社会的孤立状態の高齢者におけるソーシャル・キャピタルに関する検討. 日本老年社会学会第56回大会. 2014年6月7日、岐阜県下呂市.

安部幸志 高齢者の社会的活動とメンタルヘルスとの関連 公募シンポジウム「超高齢社会における高齢者の社会参

加」. 日本心理学会第 77 回大会 . 2013 年 9 月 21 日、札幌市 .

安部幸志・大橋明 地域密着型のソーシャル・エンゲージメントが高齢者の精神的健康に及ぼす影響 . 日本心理学会第 77 回大会 . 2013 年 9 月 20 日、札幌市 .
大橋明・安部幸志・大井智香子 地域における社会関係が高齢者の時間的展望にもたらす差異 寺の行事への参加の有無と配偶者の有無の観点から . 第 55 回日本老年社会学会大会 . 2013 年 6 月 6 日、大阪市 .

安部幸志・大橋明・大井智香子 高齢者の社会的孤立と抑うつリスクの関連について . 第 55 回日本老年社会学会大会 . 2013 年 6 月 5 日、大阪市 .

Abe K, Ohashi A, Ohi C, Mizuno K, Arai Y. The effects of visiting local market on the mental health of senior citizens in Japan. The 65th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America. 2012 年 11 月 27 日、San Diego, USA.

Ohashi A, Abe K, Ohi C, Mizuno K, Arai Y. Roles in family, family structure and time perspective of older adults in Japan. The 65th Annual Scientific Meeting of the Gerontological Society of America. 2012 年 11 月 27 日、San Diego, USA.

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

安部 幸志 (ABE, Koji)

関西国際大学・人間科学部・教授

研究者番号 : 9 0 4 1 6 1 8 1